



この春、桑山、比地大、笠田、上高野、本山の旧5小学校にも、1年前と同じように桜の花が咲き、子どもたちのいなくなった学校に、静かに花びらを散らしていました。静心(しづごころ)なく花を眺めるのは私たちであり、桜は悠然と何百年と変わらぬ営みを繰り返しているように見えました。

ほぼ時を同じくして、豊中小学校の正門近くでは、一本の桜の苗木が精一杯の数輪の花を咲かせ、始業式・入学式に初めて登校する子どもたちを迎えていました。

散る桜、咲く桜は、別れと出会いの季節の情感を静かに物語ります。

28日の開校式では、校歌の始まりの一節「春の木漏れ日 未来へと続く桜道」を式辞の冒頭に据えました。

未来へと続く桜道

人は桜の散る姿を見て別れを思い、毎年同じように咲く花にも新たな未来や希望を重ねます。散る桜、咲く桜に、人は別れと出会いを重ねます。悲しい別れを経験するたびに、人は新しい出会いを、より大切にするようになります。

ここにいる子どもたちはもちろん、旧五校の卒業生も、子どもを送り出してきた保護者の方々も、そして、学校とそこからあふれる声を見守って来られた地域の方々も、ひと月ほど前、それぞれの学校との寂しい別れを経験したばかりです。しかし、そのような私たちだからこそ、この新たな出会いの喜びを豊中小学校に込めることができると信じています。(開校式 式辞より抜粋)

豊中小学校の苗木の桜も、いつか旧5小学校の桜のように、たくさんの出会いと別れを見届けながら、立派な大樹へと成長していくのでしょうか。そして子どもたちは桜の成長を追うように、たくさんの出会いと別れを経験しながら、将来、ふるさとを支える大樹となるはずです。

新たな出会い これからも

この開校式にも新たな出会いがありました。校歌を作詞・作曲してくださった藤岡友香さんが式に参加してくださり、さらに子どもたちと一緒に校歌を歌ってくださいました。

藤岡さんは、「いつでも頼っていいんだよ そのための友達さ」「いつでも泣いたっていいんだよ 心が軽くなるさ」などの歌詞に込めた思いを語ってください、最後に「大人は楽しいよ。」と締めくくってくださいました。歌うことが大好きで、体育館いっぱいに歌への思いを響かせる藤岡さんの言葉は、きっと、式辞よりも子どもたちの心に残ったことでしょう。

この日、式場の壇上に飾られていた胡蝶蘭は、笠田高校からの贈り物です。開校のお祝いにと、生徒が育てたものを校長先生が届けてくださいました。笠田小学校や比地大小学校で交流していたように、料理クラブや学校農園などで一緒に活動できることがあれば、豊中小学校でもぜひ、というお話もいただきました。

新小学校で出会いの幅が広がります。出会いを繰り返し大樹へ。

羽ばたけ 豊中小学校。

輝け 豊中小学校。



【藤岡友香さんと歌う校歌 壇上には胡蝶蘭】